

SRT- I スイフトウォーターレスキューテクニシャン レベル I /スケジュール表

注1:スケジュールは予定です。終了時間は遅くなる事があります。また、始業時間の変更もあります。
注2:下記の項目以外の講習を加えたり、替えることがあります。

1日目 受付／9:00～9:20
机上講習／9:30～18:30(終日、教室。途中、昼食をはさむ)

| 講習課目 | 概要 |
|------------|--|
| レスキュー哲学 | レスキューの基本的な考え方と救助者の心構え。レスキューの優先順位、危険レベル分類、チーム構成など |
| 水文学と流水力学 | 川と流水の特性、危険個所。エディー、ホール、ストレーナーなどの説明。 |
| パニックとサバイバル | パニック状態の要救助者への対応。危機に直面した時のあり方。 |
| コミュニケーション | レスキュー現場でのコミュニケーションの取り方。特に有効なホイッスルとハンドシグナルの紹介。 |
| メディカル | 川での事故やケガの特徴。基本的な応急手当の原則。 |
| 個人装備 | レスキューに必要な個人装備や服装の紹介。PFD、ヘルメット、リバーナイフ、ウェットスーツなど |
| チーム装備 | ロープ、滑車、カラビナなど器具の特性、素材、強度、使用方法の説明 |
| ロープノット | レスキューに有効で効率的なフィギュアエイト(8の字結び)系を中心としたロープの結び方の紹介と習得 |

2日目 実技講習と机上講習／8:00～18:30(午前中、川での実技講習)

| 講習課目 | 概要 |
|--------------|--|
| 流水での基本的泳法 | 流れの方向やエディーを確認し、安全に流される泳法や、積極的な泳法についての実習。 |
| スローロープ・レスキュー | 極めて有効な救助の道具である、スローロープ(スローバック)の特性と使い方、流される要救助者を陸上から救助する訓練 |
| コンタクトレスキュー | 流されている、溺れている要救助者を、直接、泳いで救助する訓練 |
| ライブバイト・レスキュー | クイックリリースベルト付きPFDとスローロープを利用したレスキュー訓練 |
| Cスパインロール | 頸椎損傷が疑われる、意識の無い要救助者の気道確保と救助(着替えて、昼食後、陸上で机上および実技講習) |
| アンカーシステム | ロープの支点の取り方、角度の問題、流動分散・固定分散など |
| 倍力システム | 滑車を利用したロープの方向転換や倍力による展張線(テンションライン)や重量物を移動させる方法。Zドラッグなど。 |

3日目 実技講習と認定式／8:00～19:00(終日、川での実技講習。現地で昼食予定)

| 講習課目 | 概要 |
|------------------------|---|
| ボート操船 | 水上救助で使用するインフレーターボートの操船訓練 |
| 浅瀬横断 | 救助者(単独および複数)が、浅瀬を歩いて要救助者を救助する方法 |
| ストレーナー越え | 流水にあるストレーナーの危険性の確認と対応についての訓練 |
| フットエンタラップメント | 川底の障害物などに足がはさまり動けなくなった要救助者の救助方法 |
| 2ポイント・4ポイント・ボートテザーシステム | ボートに複数のロープをつなぎ、ロープを両岸から操作することによりボートを制動させる救助システムの訓練 |
| テンション・ダイアゴナル | 川に正しい角度で展張線(テンションライン)をチームで張り、その有効性を確認する。(着替え、教室へ移動) |
| 筆記試験と認定式 | 学科試験を実施。実技講習中のチェックと合わせ、合格者に認定証を交付 |

| | |
|------------|---|
| 個人装備(当日持参) | □筆記具(ノート、手帳、多色ボールペンなど) |
| | 河川講習用／□PFD □ヘルメット □ウェットスーツ □シューズ ※不足する装備品はレンタル可能です(有料)。事前に、お申し出ください。 食事／昼食は含まれません。ご持参されるか、受付時に、ご注文ください。 |